

# MINIMINI MINES

秋田大学所蔵

## 山本作兵衛炭鉱記録画

が常設展示になります

この度、常設展示になる2枚の「山本作兵衛炭鉱記録画」は、作兵衛と交流があった故角銅立身氏のご遺族から平成26年12月に秋田大学に寄贈をいただいた原画の複製です。筆遣いや色合いはもちろんのこと、画鋲止めの痕や紙のほつれまで精密に再現されています。

「山本作兵衛炭鉱記録画」は、画用紙に水彩画で描かれ、解説もともに書き込まれており、明治から昭和期にかけての炭鉱の姿が、驚くべき正確さと緻密さで克明に記録されています。これにより当時の炭鉱内外の労働や、それを取り巻く生活、文化、社会情勢を知る上で大変貴重な資料になることから、2011年(平成23年)に、絵画585点を中心に、日記や原稿を含めた合計697点がユネスコ世界記憶遺産に登録されました。



©Yamamoto Family

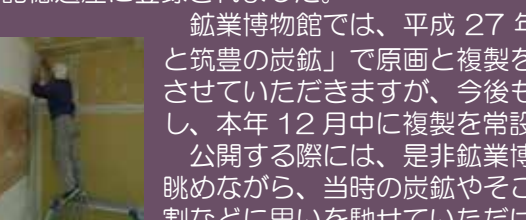


©Yamamoto Family

鉱業博物館では、平成27年4月から6月にかけて企画展「山本作兵衛と筑豊の炭鉱」で原画と複製を公開しました。原画は保存のため公開を控えさせていただきますが、今後も多くの方に見ていただけるよう展示室を改修し、本年12月中に複製を常設展示として公開する予定です。



工事の様子



公開する際には、是非鉱業博物館へご来館いただき、記録画や展示資料を眺めながら、当時の炭鉱やそこに働く労働者が近代日本の繁栄に果たした役割などに思いを馳せていただければ幸いです。

平成27年度 第2回市民向け開放講座

### 「荒川の鉱山誌」発掘プロジェクト

### 3次元測量画像の公開と選鉱技術のデジタル復元に向けて

日時：平成27年11月6日(金) 15:30~16:30

講師：秋田大学国際資源学部教授 今井 忠男 氏



講師の今井先生

平成27年11月6日(金)に第2回鉱業博物館市民向け開放講座が開催されました。

現在「荒川の鉱山誌」発掘プロジェクトとして、荒川地区の鉱山の調査を進めております。このプロジェクトは、荒川上流部の近代銅山から調査を開始し、時間と地域を下流部の近世・中世の金銀山へと広げ、荒川地区全域の鉱山誌を解明することで、この地区を鉱山の歴史保存地区とすることを目指しています。今年4月と6月に無人ヘリ(ドローン)を用いて荒川鉱山選鉱場遺構を空撮し、近代選鉱場遺構の3次元デジタルアーカイブ(3次元の測量データとして保存すること)を作成しました。今回の講座では、その3次元デジタルデータが公開されました。



荒川鉱山の選鉱場設備の遺構



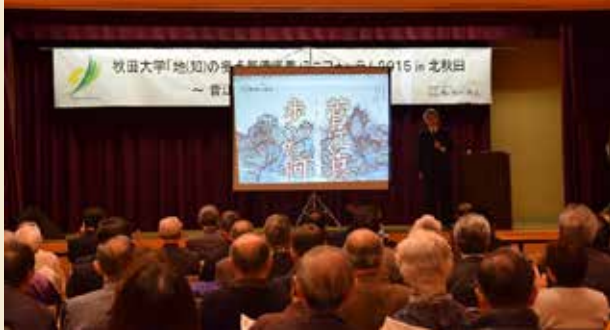
聴講者の皆さん

今井教授は、選鉱場の復元に向けて、当時どのような操業がされていたか分かる形にしたい、また、荒川鉱山中央選鉱場のシステムの解明をしたい、と述べました。そして、大盛館を荒川地区の鉱山史の展示場およびインフォメーションセンターとすること、近代荒川鉱山の史蹟公園の整備、荒川銀山や畑鉱山などの金銀鉱山群の史蹟ルートの整備をしていきたい、と話しました。

講演後は聴講者から質問が飛び交い、活気のある講演会となりました。

平成27年度阿仁伝承館・秋田大学連携展

# 菅江真澄が歩いた阿仁鉱山 阿仁の名所が生まれた瞬間



フォーラムの様子

開催され、連携展監修者である今井忠男教授（秋田大学国際資源学部）が講演を行いました。

平成27年10月30日（金）から、平成27年度阿仁伝承館・秋田大学連携展「菅江真澄が歩いた阿仁鉱山」阿仁の名所が生まれた瞬間」が、阿仁郷土文化保存伝承館で開催されています。4回目となる今回の連携展は、学見江戸後期に阿仁を旅した菅江真澄の旅日記をもとに、阿仁鉱山の文化と名所を探索し、阿仁の名所を少しでも復興できるよつ、その今昔を明らかにするというものです。

開催当日の30日（金）には、秋田大学COO事業主催によるミニフォーラムが



展示完成



資料の貼り付け



準備前

## 連携展 設営風景

講演の中で今井氏は「真澄の描いた名所の多くは、現在活用されていない場所が多い。名所として復活できれば地元の活性化につながるのではないかと話しました。会場には80名を超える聴講者が訪れ、講演を楽しみました。



連携展ポスター

## 連携展情報

連携展会場：阿仁郷土文化保存伝承館  
 開催期間：平成27年10月30日（金）  
 ～平成28年2月14日（日）  
 開館時間：9時から17時  
 休館日：毎週月曜（月曜日が祝日の場合は翌日休館）  
 入館料：大人400円  
 高校・大学生300円  
 小・中学生200円  
 住所：北秋田市阿仁銀山字下新町41-22  
 電話番号：0186-82-3658

## 菅江真澄とは

江戸後期に生きた三河の国出身の菅江真澄は、48歳から76歳で亡くなる28年間を秋田藩内で暮らしました。真澄は、人生の多くを旅の中で過ごし、秋田領内を隈無く歩いて、土地の様子と歴史を詳細に記録し、和歌を詠みました。真澄が立ち寄った県内の数多くの名所・旧跡には、真澄の碑が建てられています。

## 職場体験を行いました

平成27年10月23日（金）、秋田市立東中学校の1年生4名が、職場体験のため、博物館を訪れました。はじめに、博物館の概要、歴史、年間スケジュールなどについて学習し、鉱石や鉱物の解説を聞きながら博物館を見学をしました。その後、売店の在庫確認やリストの作成などを行いました。

後日、体験学習をした生徒からお礼の手紙が届きました。この職場体験で学んだことを生かし、自分に合った働き方や生き方を目標したい、と書かれてあり、有意義に学んだ様子が伝わってきました。



きちんと在庫確認  
しています



リスト作成中！  
売れ筋はどの石かな？